

アグリ ワーク ポイント AGRI WORK POINT

米

収穫期の管理

農業経営支援課 山村 哲平



落水時期を適切に

落水時期の目安は、概ね刈取り7日～5日前とします。早期落水による極端な土壌の乾燥は**胴割米^{どうわりまい}**の原因となりますので注意してください。

収穫適期の判断

収穫はほ場ごと十分に観察し、適期刈取りを心がけましょう。緑色のもみが5～10%まで減った頃が**収穫適期**です。

出穂から収穫時期までの日数の目安は以下の通りです。

コシヒカリ 35日前後
きぬむすめ 40日前後
あいちのかおり SBL 45日前後

収穫が適期より早すぎた場合には未熟米が、収穫が適期より遅すぎた場合には胴割米が発生しやすくなります。

※今年**は猛暑により例年と比べて稲の生育スピードが早い**ので注意してください。

収穫後の管理

収穫は乾燥機の乾燥能力に合わせて計画的に行い、収穫したもみは速やかに乾燥作業を済ませましょう。生もみを長時間積んでおくと、着色粒や斑点米（ヤケ米）などの発生原因になります。

もみを乾燥する場合はすぐに点火せず5～6時間の通風循環を行う、乾燥機への投入量は6～7割に抑えるなどの乾燥ムラ対策を行いましょう。

出穂後の高温や刈遅れなどにより胴割れが予想される場合は、日中は常温で通風乾燥とし、点火した場合も水分の減少を毎時0.5%以下となるようゆっくり乾燥させてください。

もみ水分量14.5%を目安に乾燥を終了してください。営農経済センターでは水分計で実際の水分量を測定することができますのでご相談ください。